

令和8年度 境北中学校 学校評価アンケート 結果及び改善策、方針等

評価対象	評価項目			評価者	A+Bの割合	今後に向けての改善策、学校としての方針等 ※色つき（水色）の項目：評価80%未満…重点的な対応が必要な項目
I 保護者との連携	保護者への情報提供	1	生徒の様子や学校の情報を保護者に連絡し、理解を得ていますか。	教職員	100%	学校通信や学級通信、学校HP、連絡用アプリtetoruを活用し、学校の様子や指導方針をタイムリーかつ可視化して発信します。今年度より、学校HP「境北中Diary」にて、行事だけでなく日常の様子も伝えることで保護者の理解と安心感を深められるようにしました。ご家庭では、配信情報の定期的な確認とご意見・感想の共有をご協力お願いできればと考えています。
				保護者	91%	
	連携のための環境づくり	2	保護者は、学校の行事に積極的に参加し、学校のことを知ろうとしていますか。	教職員	100%	一学期は、学校行事へ多くの保護者の皆様が積極的に参加してくださいましたことに深く感謝しています。より参加しやすい学校行事の在り方について検討を重ね、生徒の活躍の場をより多く見ていただけるようにしていきます。ご家庭には、ぜひ行事や参観にお越しいただき、生徒の成長を温かく見守っていただくようお願いいたします。
				保護者	86%	
	保護者への対応	3	保護者が連絡や相談をしやすい体制づくりができていますか。	教職員	100%	相談体制の充実や相談機会の増設について検討を重ね、保護者が気軽に連絡・相談できる環境を整えます。今後も、迅速かつ丁寧な対応に努めていますので、ご家庭では、お子様の様子を丁寧に見取り、小さな変化や気になる点があれば遠慮なく早期にご相談いただくようお願いいたします。
				保護者	90%	
II 確かな学力	わかる授業	4	生徒にとって満足感を味わうことのできる授業づくりができていますか。	教職員	100%	生徒が主体的に学び、達成感を得られるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせた授業展開を推進します。また、対話や発表の場を増やします。ご家庭では、学校での学びや「今日学んだこと」について日常的に話題にし、生徒の学びを励ましていただくようお願いいたします。
				生徒	91%	
		5	生徒は授業がわかりますか。	生徒	87%	ICT機器を活用した視覚的な工夫や小テスト等による細かな理解度把握を行い、一人ひとりに応じた指導や支援を心がけます。ご家庭では、日頃の会話を通じて授業の理解状況を把握し、困っている様子があれば学校へご共有いただくようお願いいたします。
				生徒	87%	
	評価の活用	6	生徒の学力や努力を適切に評価し、その結果を生かしていますか。	教職員	100%	今後も、多角的な観点から適切に評価し、フィードバックを行います。その結果を授業改善や生徒個々の伸びしろの把握に繋げます。ご家庭では、点数や成績のみにとらわれず、生徒の努力や成長の過程を褒めて伸ばす関わりをお願いします。
	学習習慣	7	生徒は、ご家庭で学校の宿題をしていますか。	教職員	89%	家庭学習の定着に向け、学習内容や量、提出状況を把握・指導し、適切な質の課題を計画的に出します。ご家庭では、家庭学習の時間や環境の確保に努めていただき、提出期限を守って提出できるよう声かけのご協力をお願いします。
				生徒	85%	
		8	生徒は、ご家庭での自主学習に取り組んでいますか。	生徒	74%	学校では、単に宿題をこなすだけでなく「何のために学ぶのか」を考えさせ、自身の向上のために主体的に学ぶことができる学習者の育成を目指していきます。また、優れた取り組みを積極的に紹介し、モチベーションを高められるようにしていきます。ご家庭では、毎日決まった時間（例：夕食前や入浴後など）に机に向かう「学習タイム」をご家庭内でルール化してください。保護者は、「勉強しなさい」と指示するのではなく、「今日はどんな課題に取り組んだの？」と声をかけ、自分で決めた学習をやり遂げた過程を具体的に褒めていただくようご協力をお願いします。
				生徒	74%	
		9	生徒は、ご家庭での学習で、生活記録やSSPカード、学習の手引き等を活用していますか。	生徒	74%	学校では、生活記録やSSPカードを活用し、生徒が自身の生活リズムや学習時間を客観的に振り返るセルフモニタリング習慣の定着に努めています。担任は記入内容に対して肯定的なコメントや具体的なアドバイスを定期的にフィードバックし、記録が自己管理能力の向上に繋がるよう指導します。生活記録やSSPカードは「学校・生徒・家庭を結ぶ連絡帳」です。保護者様におかれましては、週末や日々の確認時に目を通していただき、生徒の頑張りに対しての温かい声かけをお願いします。
				生徒	74%	
		10	生徒は、好きな本を見つけ、進んで読書をしていますか。（デジタル書籍、Webでの調べものを含む）	教職員	67%	生徒玄関、印刷室前にて、図書館事務担当が毎日欠かさず「今日は何の日？」を紹介し、それにちなんだ本「今日の一冊」を展示しています。それを見て、読書へ興味をもつとともに、図書室に足を運ぶきっかけになればと考えています。また、総合的な学習の時間等において、デジタル書籍やWebサイトを活用した効果的な情報収集・整理の仕方を指導し、メディアを問わない「調べる読書」の力を育てます。ご家庭でも、休日に一緒に図書館や書店へ足を運んだり、ご家庭内に本や新聞を手に取りやすい環境を作ったりするようご協力ください。また、テレビやスマホをオフにする「ノーメディア読書タイム」を設けたり、読んだ本や気になるニュースについて親子で意見を交わす機会を作っていたけると幸いです。
				生徒	80%	

評価対象	評価項目			評価者	A+Bの割合	今後に向けての改善策、学校としての方針等 ※色つき（水色）の項目：評価80%未満・・・重点的な対応が必要な項目
Ⅲ 豊かな心	あいさつ・言葉遣い	11	生徒は、すすんであいさつをしたり、TP0に応じた適切な言葉遣いができていますか。	教職員	100%	今後も、挨拶運動やマナー指導を通じ、時・場所・相手に応じた適切な挨拶・言葉遣いを指導していきます。教職員が良い手本となれるように、率先して取り組んでいきます。校長も毎朝校門に立ち、生徒とあいさつを交わすことで、気持ちの良い一日のスタートに少しでも貢献できればと考えています。ご家庭内でも「おはよう」「ありがとう」などの基本的な挨拶と言葉遣いを日常的に意識・実践いただくようご協力をお願いします。
				生 徒	93%	
				保護者	87%	
	いじめのない温かな人間関係	12	いじめのない温かい人間関係を育てることができていますか。	教職員	100%	定期的なアンケート調査や面談を徹底し、小さな変化や異変を早期に発見・対応していきます。また、思いやりの心を育む道徳教育の推進にも力を入れていきます。ご家庭では、日頃から生徒の様子に目を配り、悩みや変化を感じた際には速やかに学校へご相談いただくようお願いいたします。
				生 徒	94%	
				保護者	91%	
	生徒の自己肯定感・自己有用感	13	生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることができていますか。	教職員	100%	学校では、日々の授業での発表やグループ活動、行事や委員会活動の中で、すべての生徒に明確な「役割」と「活躍の場」を設定していきます。小さな成功体験や貢献を教職員が見逃さず、「〇〇さんの発言で助かった」「準備をありがとう」といった具体的に承認する声を日常的にかけ、自分の存在価値を実感させます。ご家庭では、テストの点数や失敗などの「結果」だけでなく、「挑戦したこと」「毎日継続していること」といった「過程・努力」に目を向け、肯定的な言葉をかけてください。また、料理の手伝いや掃除など具体的な役割（お手伝い）を与え、「助かったよ」「ありがとう」と伝えることで、ご家庭内での自己有用感も育てていただくようお願いいたします。
				生 徒	69%	
				保護者	94%	
	学校やご家庭のルール	14	社会や学校の決まりや約束を守って生活する生徒を育てることができていますか。	教職員	89%	校則や社会のルールの意義を生徒自身に考えさせ、納得感をもった規範意識を育てます。また、教職員間での共通理解を徹底し、指導の統一を図るようにしていきます。ご家庭内でも約束事やルールの大切さを話し合い、基本的習慣や社会規範の定着に向けた一貫したご指導をお願いします。
				生 徒	96%	
				保護者	92%	
Ⅳ 健康・体力	基本的生活習慣	15	生徒は、朝食の重要性を理解するとともに、毎日朝食をきちんととっていますか。	教職員	89%	食育指導を通じ、朝食が脳や身体の活力源となる重要性を学ばせます。学校通信や保健便り等で啓発を行います。ご家庭では、生徒が毎朝決まった時間にバランスの良い朝食を摂取できるよう、規則正しい生活リズムづくりへのご協力をお願いします。
				生 徒	91%	
				保護者	94%	
		16	生徒は、睡眠の重要性を理解するとともに、十分な睡眠をとっていますか。	教職員	89%	睡眠と成長・学習効率の関係について指導し、夜間のスマホ使用の見直しなどメディアリテラシー教育を行います。ご家庭では、就寝時間やメディア利用のルールを親子で話し合って決定し、適切な睡眠時間を確保できるようサポートをお願いします。
				生 徒	85%	
				保護者	91%	
	体力づくり	17	健康で体力のある体をつくらうとする生徒が育っていますか。	教職員	100%	体育の授業や部活動の充実、日常的な運動習慣の形成を図り、健康で体力ある体づくりを推進します。ご家庭では、休日における適度な運動や屋外活動の奨励、栄養バランスの取れた食事の提供など、健康面での手厚いサポートをお願いします。
				生 徒	84%	
				保護者	87%	
Ⅴ 安全確保・施設設備	学校の施設設備・安全対策	18	感染症対策を含め安全管理や危機管理を徹底していますか。	教職員	100%	感染症対策の徹底や定期的な防災・防犯訓練の実施により、校内の安全・危機管理体制を万全にします。ご家庭では、体調管理、非常時における避難方法や連絡手段についてご家庭内で確認・共有いただくようご協力をお願いします。
				保護者	95%	
	地域の安全対策	19	学校・ご家庭・地域は連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを行っていますか。	教職員	94%	これまでに、登下校時の交通事故が1件も発生していないことを何より嬉しく思っています。今後も、学校・ご家庭・地域が連携し、定期的な街頭指導や通学路の危険箇所点検の実施に努めます。また、交通マナーの徹底を図ります。ご家庭では、地域の見守り活動へのご参加や、ご家庭でも自転車の乗り方や交通ルールの確認を繰り返し指導いただくようお願いいたします。
				保護者	90%	

評価対象	評価項目			評価者	A+Bの割合	今後に向けての改善策、学校としての方針等 ※色つき（水色）の項目：評価80%未満…重点的な対応が必要な項目
Ⅵ 進路・ 生き方	夢や希望	20	生徒は将来の夢や希望をもつことができていますか。	教職員	100%	学校では、3年間を見通した体系的なキャリア教育を推進します。1・2年次での職業講話や職場体験学習、3年次での身近な先輩や専門家との対話を通じて、「働くことの価値」や「自己の適性」を深く考えさせます。さらに、単に職業を知るだけでなく「どんな生き方をしたいか」を軸に、日々の学びが将来にどう繋がるかを意識させる指導を行います。ご家庭でも、保護者ご自身の仕事に対する思いや苦勞、やりがい、中学生時代の経験などをぜひお子様に話す機会をつくってみてください。また、お子様が興味をもっている分野や「やってみたいこと」を否定せず、夢や将来の希望について日常の食卓などでフラットに語り合える雰囲気をご家庭内でつくっていただけるようお願いします。
				生徒	81%	
				保護者	66%	
		21	親子で進路について話し合えるようにご家庭への働きかけを行っていますか。	教職員	100%	学校では、「キャリア・パスポート」を活用して、自分自身の特徴を把握したり、将来の生き方を考えさせたりする活動に取り組んでいます。「キャリア・パスポート」とは、小学校から高校までのキャリア教育に関する活動について、自分自身の変容や成長を自己評価できるように蓄積していく記録（ポートフォリオ）のことです。キャリア・パスポートの活用は、学校だけで完結する教育活動ではありません。定期的にご家庭に戻していきますので、内容を確認していただき、お子様と話し合う機会をつくってみてください。子供から将来の夢や卒業後の進路について話すのは難しいので、保護者からきっかけづくりをしていただけるとありがたいです。その際、保護者様の意見を一方的に押し付けるのではなく、まずは「本人がどうしたいと考えているのか」を最後まで傾聴してください。その上で、学費や将来の方向性について包み隠さず話し合い、親子で納得して進路決定に臨めるよう、早い段階から継続的な対話の時間を持っていただくようお願いします。
				生徒	77%	
				保護者	82%	
Ⅶ 組織 運営	教職員マネジメント	22	教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体となって努力していますか。	教職員	94%	管理職と教職員が学校教育目標を常時共有し、定期的なビジョンの確認やPDCAによる評価を通じて連携を深めます。教職員一丸となって生徒の育成に取り組み、信頼される学校づくりを推進してまいります。
		23	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係が築けていますか。	教職員	94%	定期的なミーティングや風通しの良い対話の場を設け、日々の悩みや指導上の課題を抱え込まず相談できる同僚性を構築します。互いに支え合い、チームとして課題解決にあたる組織文化を醸成します。
		24	教職員は設定した自己目標の達成に向け、主体的に日常的教育実践に取り組んでいますか。	教職員	100%	自己申告書や個人目標の設定を活用し、研修参加や授業改善に主体的に取り組めます。指導力向上に向けた振り返りと評価を定期的におこない、質の高い教育実践を維持・向上させていきます。
		25	職員会議は校長の経営方針を踏まえた情報交換や課題検討の場として機能していますか。	教職員	89%	伝達事項はデジタル共有等で効率化し、職員会議は校長経営方針に基づく重点課題の協議や意見交換の場として活用します。教職員全体で深く議論し、共通理解と主体的な参画意識を高めます。
		26	PDCAサイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化していますか。	教職員	94%	検証可能な具体的指標をもとに学校評価を実施し、結果を迅速に分析して改善策を講じます。PDCAサイクルを定着させ、評価結果や改善点を保護者や地域へ開示することで透明性の高い学校運営を行います。
		27	適材適所を配慮して校務分掌が組織され、有効に機能していますか。	教職員	72%	学校では、教職員一人ひとりの経歴・適性・専門性や得意分野を詳細に把握した上で、校務分掌の最適配置を行っています。今後、一部の教職員に負担が偏らないよう、公平な配置に努めています。また、できる限りチーム制（複数担当制）を導入して、業務の可視化と相互フォロー体制を確立できるようにしていきます。
		28	服務規律を遵守し、教員としての自覚をもった言動がとれていますか。	教職員	100%	コンプライアンス研修の継続実施や不祥事防止策の徹底を通じ、教職員としての倫理観と高い自覚を醸成します。地域・保護者から信頼される学校であり続けるため、厳正な規範意識を持った言動を徹底します。
		29	個人情報情報が確実に保護されるように、情報セキュリティマニュアルを遵守していますか。	教職員	100%	情報セキュリティマニュアルの遵守を徹底し、個人情報の持ち出し管理やデジタルデータのアクセス制限を厳重に行います。定期的な点検を実施し、情報漏洩や事故の防止に万全を期します。
		30	ワークライフバランスを考え、業務改善や事務の効率化をはかっていますか。	教職員	94%	校務のデジタル化や会議の短縮・効率化を進め、時間外勤務の縮小とワークライフバランスの実現を図ります。教職員が心身ともに健全で、余裕を持って生徒に向き合える環境を整えます。
	教育計画	31	年間指導計画にもとづいた計画・継続的な指導が実践できていますか。	教職員	100%	年間指導計画に基づいた進捗管理を定期的に行い、系統的かつ計画的な指導を展開します。学習や生活指導の継続性を確保し、生徒個々の定着度に応じた柔軟な補正を行いながら着実な成長を図ります。
	研修	32	校内研修は教師の資質向上に結びつくものになっていますか。	教職員	100%	生徒の課題や時代のニーズに応じた校内研修を企画・実施します。模擬授業や事例研究を取り入れ、単なる知識伝達にとどまらない、実践的で教員の指導力向上に直接結びつく研修体系を構築します。
	学校支援センター	33	教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用していますか。	教職員	100%	地域の専門家やボランティア、事業所との連携を深め、出前授業や体験学習などの実践の機会を創出します。地域の豊かな教育力を学校活動に積極的に取り入れ、学びの質を高めます。
	適正な部活動の運営	34	部活動は、学校の部活動方針に則って運営されていますか。	教職員	100%	学校の部活動方針に基づき、適切な活動時間や休養日の設定を遵守して計画的に運営します。生徒の心身の健全な育成と学業との両立を図り、安全で無理のない持続可能な部活動を実施します。
				保護者	94%	

評価対象	評価項目	評価者	A+Bの割合	今後に向けての改善策、学校としての方針等 ※色つき（水色）の項目：評価80%未満・・・重点的な対応が必要な項目
Ⅷ 研 修	授業中や授業後に、『なぜだろう?』という疑問や、『もっとやってみたい!』という気持ちをもつことがありますか。	生 徒	77%	学校では、教師が解法や知識を教え込むだけでなく、生徒自らが問いを見出す「探究型・問題解決型授業」への転換を推進します。身近な現象や社会課題を取り入れた導入（「なぜこうなるのだろうか?」という問いかけ）の工夫や、ICT・一人一台端末を活用した調べ学習・意見共有の場を増やし、知的探究心を一層掻き立てる授業づくりを行います。ご家庭では、学校での学習を単なる作業にさせないため、帰宅後に「今日、学校で一番面白かったことは何?」「どんな不思議なことがあった?」といった問いかけをお願いします。生徒が疑問や疑問の答えを保護者の方に説明（アウトプット）する機会をすることで、探究心や「もっと知りたい」という意欲をご家庭でも広げていただくようご協力をお願いします。
	生徒に教科の魅力を感じさせるための指導の工夫を心がけていますか。	教職員	100%	教職員意識100%という高い意欲を維持しつつ、実践の質をさらに高めます。教科内で導入の工夫や教材研究の事例を共有する「公開授業」を定期化し、工夫がしっかりと生徒の興味関心（上記項目等の評価）に結びついているかを相互に検証・改善していきます。